

「計画」

土山小学校

令和8年度 我が校の学ぶ力向上策

【県目標】 第三期学ぶ力向上滋賀プラン
夢と生きる力を育むために、子どもたちの主体的な活動を通して、学ぶ力を高める。

【令和8年度取組の重点】 子ども一人ひとりの「ワクワク」する学びへ
○発達の段階を踏まえた言語活動の充実
○1人1台端末等の効果的な活用
○自分に合った学び方を身に付ける指導の推進

【市町の目標】
○IKOKA学習デザインを基盤とした、主体的・対話的な深い学びの実現を目指し、学ぶ楽しさを実感し、確かな学力を育む教育の充実
・「読み解く力」向上を図るための授業開発、実践の推進を図る。
・「主体的・対話的で深い学び」「個別最適な学び」のツールとしての効果的なICT活用の促進を図る。
・いじめを許さず、支え合い学び合う集団を育てる学級、学校づくりの充実を図る。

【学校の目標】
○子どもが自ら問いをもち、対話を通じて交流し、考えをより深める児童の育成を目指す。
○学校、家庭、地域が一つになった教育の推進を目指す。

【現状と課題】
○視点1 基礎的な力が身につけていない子や、身につけていてもそれを活用したり表現したりすることが苦手な子がいる。
（1）子どもの語彙力が乏しく豊かな文章表現をするのは難しい。また教師も、子どもの発言をつないだり子どもの言葉でまとめたりする授業を目指したい。
（2）ICTの活用は積極的に行い、調べ学習などタブレット操作を使いこなしている児童が多い。
○視点2 自尊感情が低く、自分に自信が持てない傾向がある。
○視点3 身近な人や地域に働きかけ、自分たちの生活を豊かにしようとする意欲が弱い子がいる。

取組事項および評価指標

【視点1】子どもたちが主体の授業づくり	
取組事項	評価指標
①国語科において、自分自身や文章、他者との対話を通して自ら問いをもち、その課題を解決していく過程でさらに考えを深めていく授業を目指す。	①学校評価の「授業が分かる」項目で、肯定的な回答が80%以上
②ICTを使った効果的な学びあいの場について研究を深める。	②タブレットで友達の考えを見る学びあいの場の設定を、学期に1回以上行う。

【視点2】学びを支え合う集団づくり	
取組事項	評価指標
①互いの良さや違いを認め合う温かい学級集団作り ・毎月の人権の日 ・人権週間 ・日々の声かけ	①学校評価の「学校が楽しい」という回答が90%以上
②生徒指導上の課題を明らかにし、根気よく取り組む ・人間関係、パワーバランスの見取り ・平時からの観察 ・こころん、職員会議	②学校評価の「いやなことを言われる」の項目が10%未満

【視点3】協働して取り組む学校づくり	
取組事項	評価指標
①様々な学力向上の取り組みを全クラスで共通実践する。 ・朝学習 ・読書活動 ・家庭学習の充実 ・百人一首	①朝学習の取り組み95%以上
②コミュニティスクール土山の運営 ○「土山学」の充実	①家での読書も含めた家庭学習時間が学年×10分+10分以上取り組んでいる子が75%以上
	②「土山学」の実施80%以上

◇「学ぶ力向上策」の実効性を高めるために、職員全体で共通理解・共通実践し、検証・改善していく時期や手立て等

・視点1の①については研究主任が中心になって進め、②については情報推進担当が好事例の紹介などを行う。
・視点2については人権主任を中心に学校全体の取組を進めるとともに各クラスでも取組と観察をしっかり行う。また、生徒指導主任、教育相談担当が個別の問題点の対応を担当とともに進め、場合によっては組織対応していく。
・視点3の①については学力向上推進リーダーと学び部会が中心となり進めるとともに、読書担当も読書環境を整え協力する。
・視点3の②については、各学年の生活科、総合的な学習の時間の年間計画を把握し、実践していく。
・夏休みに、1学期の取り組み状況を振り返り、後半の取組につなげる。また、それぞれの取組事項に対する中間評価結果を学校だよりで保護者や地域に発信する。

-

□

i

-

]

]